

(目的)

**第1条** この規程は、島根県立大学国際関係学部・地域政策学部履修規程第12条の規定に基づき、島根県立大学学則（以下「学則」という。）に定めるもののほか国際関係学部における授業科目の履修方法等に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(人材育成に関する目的)

**第2条** 国際関係学部国際関係学科の各コースにおける人材育成の目的は次のとおりとする。

(1) 国際関係コース

北東アジアをはじめとするアジア地域の政治経済、社会動向、文化と日本との歴史的・現代的つながりを政治学・国際関係学・地域研究を基軸として専門的に学び、確かな外国語活用能力を駆使しつつ、自らの問題関心をグローバルな視点から分析し、多文化共生のための知恵を編み出せる人材を育成する

(2) 国際コミュニケーションコース

北東アジアをはじめとする国々の言語や文化・社会等に関する理解、および言語学・コミュニケーション学についての知識を基礎とし、英語や北東アジア地域諸国の言語を活用して、自らの考えを積極的に発信するとともに、国籍や民族などの異なる他者の価値観についても受容できる、偏見のない豊かな多文化共生社会の構築に寄与できる人材を育成する

(授業科目)

**第3条** 学長は、前条に定める人材育成の目的を達成するために、必要な教育課程を編成するものとする。

2 国際関係学部国際関係学科の教育課程のうち、授業科目の名称、配当年次、単位数及び履修区分は、別表1のとおりとする。

3 別表1の「履修区分欄」に定める科目の定義は次のとおりとする。

(1) 必修科目 必ず単位を修得しなければならない科目

(2) 選択必修科目 指定された科目の中から選択し、卒業までに必ず単位を修得しなければならない授業科目

(3) 選択科目 自由に選択し、履修することのできる科目

(卒業要件)

**第4条** 国際関係学部国際関係学科の各コースを卒業するためには、学則第37条に定めるもののほか、別表2に掲げる科目群及び履修区分ごとの所定の単位数を修得しなければならない。

2 別表2の「科目群」の欄に定める自由選択科目とは、以下に掲げるものをいう。

(1) 国際関係コース

- ア 国際コミュニケーションコース科目の選択科目
  - イ 各科目群の卒業要件単位数を超えて履修する科目
  - ウ 他の大学等で開設する授業科目のうち国際関係学部が単位互換科目と認めた科目
  - エ 地域政策学部が国際関係学部に開放する授業科目
- (2) 国際コミュニケーションコース
- ア 各科目群の卒業要件単位数を超えて履修する科目
  - イ 他の大学等で開設する授業科目のうち国際関係学部が単位互換科目と認めた科目
  - ウ 地域政策学部が国際関係学部に開放する授業科目

#### 附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

#### 附 則

この規程は、令和7年4月1日から施行する。ただし、令和6年4月1日以前に入学した者に係る授業科目及び卒業要件については、第3条及び第4条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

#### 附 則

この規程は、令和8年4月1日から施行する。ただし、令和7年4月1日以前に入学した者に係る授業科目及び卒業要件については、第3条及び第4条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表1 (第3条関係)

(凡例: ●必修科目 ▲選択必修科目 ○選択科目)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	履修区分		特記事項	
				国際関係コース	国際コミュニケーションコース		
基礎授業科目群	社会科学	しまね地域共生学入門	1春	2	○	○	
		日本の政治	1春	2	○	○	
		国際社会と政治	1春	2	○	○	
		グローバル時代の平和と安全	1秋	2	○	○	
		グローバルイノベーション論	1春	2	○	○	
		経済学入門	1春	2	○	○	
		現代企業論	1秋	2	○	○	
		法学入門	1春	2	○	○	
		社会学入門	1春	2	○	○	
		ジェンダー論	1・2秋	2	○	○	
	小計(10科目)	—	20			—	
	人文科学	哲学	1・2春	2	○	○	
		日本思想史入門	1・2春	2	○	○	
		日本文化論	1・2秋	2	○	○	
		人文地理学	1・2秋	2	○	○	
		歴史学概論	1春	2	○	○	
		西洋近代史	2春	2	○	○	
		文学	1・2春	2	○	○	
		心理学概論	1・2春	2	○	○	
		地域文化入門	1秋	2	○	○	
小計(9科目)	—	18			—		
自然科学	経済数学の基礎	1春	2	○	○		
	自然地理学	1・2秋	2	○	○		
	環境科学	1・2秋	2	○	○		
	島根県の水産業	1・2秋	2	○	○		
小計(4科目)	—	8			—		
情報・統計	コンピュータ・リテラシー	1春	2	○	○		
	情報リテラシー	1春	2	○	○		
	統計学Ⅰ	1秋	2	○	○		
	統計学Ⅱ	2春	2	○	○		
小計(4科目)	—	8			—		
連携	授業ラボⅠ	2通	4	○	○		
	授業ラボⅡ	3通	4	○	○		
小計(2科目)	—	8			—		
語学・多文化理解科目	英語	英語Ⅰ	1春	2	●	●	
		英語Ⅱ	1秋	2	●	●	
		ビジネス英語入門Ⅰ	1春	2	○	●	本校業の履修前に、「ビジネス英語入門Ⅰ」を履修しておくことが望ましい
		ビジネス英語入門Ⅱ	1秋	2	○	●	本校業の履修前に、「英語Ⅰ」を履修しておくことが望ましい
		海外英語研修	1秋	2	○	○	
	小計(5科目)	—	10			—	
	北東アジア言語	中国語Ⅰ	1春	2	▲	▲	本校業の履修前に、「中国語Ⅰ」を履修しておくことが望ましい
		中国語Ⅱ	1秋	2	▲	▲	本校業の履修前に、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」を履修しておくことが望ましい
		海外中国語研修	2春	2	○	○	
		韓国語Ⅰ	1春	2	▲	▲	本校業の履修前に、「韓国語Ⅰ」を履修しておくことが望ましい
韓国語Ⅱ		1秋	2	▲	▲	本校業の履修前に、「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱ」を履修しておくことが望ましい	
海外韓国語研修	2春	2	○	○			
ロシア語Ⅰ	1春	2	▲	▲	本校業の履修前に、「ロシア語Ⅰ」を履修しておくことが望ましい		
ロシア語Ⅱ	1秋	2	▲	▲	本校業の履修前に、「ロシア語Ⅰ」「ロシア語Ⅱ」を履修しておくことが望ましい		
海外ロシア語研修	2春	2	○	○			
小計(9科目)	—	18			—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	履修区分		特記事項	
				国際関係コース	国際コミュニケーションコース		
基礎教養科目群	日本語	日本語Ⅰ	1春	2	▲	▲	外国人留学生のみ履修を認める ※外国人留学生は必修
		日本語Ⅱ	1春	2	▲	▲	
		日本語Ⅲ	1秋	2	▲	▲	
		日本語Ⅳ	1秋	2	▲	▲	
		小計(4科目)	—	8			
	多文化理解	異文化理解(アメリカ)	1秋	2	○	○	本校業の履修前に、「北東アジア賞識」「多文化共生論入門」及び「異文化理解」を履修しておくことが望ましい ・【国際関係コース】外国人留学生は履修を推奨する
		異文化理解(カナダ)	1春	2	○	○	
		異文化理解(中国)	1春	2	○	○	
		異文化理解(韓国)	1春	2	○	○	
		異文化理解(ロシア語圏)	1春	2	○	○	
		多文化交流	1秋	2	○	○	
		中国文化入門	1春	2	○	○	
		小計(7科目)	—	14			
	キャリア	キャリアプランニング	2秋	2	●	●	
キャリアプラクティス		1秋	1	○	○		
小計(2科目)		—	3				
専門基礎科目群	国際関係学科共通科目	多文化共生論入門	1春	2	●	●	
		国際文化論	2春	2	●	○	
		地域研究方法論	2春	2	●	○	
		平和学	2・3秋	2	○	○	
		ポスタースタディーズ	2秋	2	○	○	
		国際社会学	2・3秋	2	○	○	
		文化人類学	1・2春	2	○	○	
		比較文化論	1・2秋	2	○	○	
		憲法Ⅰ	1秋	2	○	○	
		社会学	1秋	2	○	○	
		地域観光資源論	1秋	2	○	○	
		SDGs概論	1春	2	○	○	
		小計(12科目)	—	24			
	国際関係コース科目	国際関係概論	1秋	2	●	○	本校業の履修前に、「歴史学概論」と同程度の内容が身につけていること
		政治学概論	1春	2	●	○	
		政治学	2秋	2	●	○	
		北東アジア関係概論	1秋	2	●	○	
		国際政治学	2秋	2	●	○	
北東アジア国際関係史		2春	2	○	○		
アメリカ政治外交論	2春	2	○	○			
アジア経済論	2秋	2	○	○			
日本外交史	2秋	2	○	○			
政治思想史	2・3春	2	○	○			
モンゴル語と文化	1・2春	2	○	○			
質的調査法	2春	2	○	○			
数的処理の基礎	1・2秋	2	○	○			
経営学概論	1春	2	○	○			
マクロ経済学	1秋	2	○	○			
ミクロ経済学	1秋	2	○	○			
行政学	1秋	2	○	○			
歴史資料解説法	2春	2	○	○			
	小計(18科目)	—	36				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	履修区分		特記事項	
				国際関係コース	国際コミュニケーションコース		
専門基礎科目群	コミュニケーション学 言語学・コミュニケーション学	コミュニケーション学概論	1春	2	○	●	本授業の履修前に、「音声学」を履修しておくことが望ましい
		言語学概論	1春	2	○	●	
		英文法	1秋	2	○	○	
		音声学	1秋	2	○	○	
		英語音韻論	2春	2	○	○	
		社会言語学	2春	2	○	○	
		比較言語文化論	2秋	2	○	○	
		異文化コミュニケーション論	2春	2	○	○	
	小計(8科目)	—	16			—	
	英語	英語コミュニケーションⅠ	2春	2	○	●	本授業の履修前に、「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」を履修しておくことが望ましい
		英語コミュニケーションⅡ	2秋	2	○	●	本授業の履修前に、「英語コミュニケーションⅠ」を履修しておくことが望ましい
		エッセイライティングⅠ	2春	2	○	●	
		エッセイライティングⅡ	2秋	2	○	○	本授業の履修前に、「エッセイライティングⅠ」を履修しておくことが望ましい
		英字新聞リーディング	2春	2	○	○	
		英語アカデミックリーディング	2秋	2	●	○	
		小計(6科目)	—	12			—
	北東アジア言語	中国語コミュニケーションⅠ	2春	1	○	▲	本授業の履修前に、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」を履修しておくことが望ましい
		中国語コミュニケーションⅡ	2秋	1	○	▲	本授業の履修前に、「中国語コミュニケーションⅠ」を履修しておくことが望ましい
		中国語読解Ⅰ	2春	2	▲	▲	本授業の履修前に、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」を履修しておくことが望ましい
		中国語読解Ⅱ	2秋	2	▲	▲	本授業の履修前に、「中国語読解Ⅰ」を履修しておくことが望ましい
		韓国語コミュニケーションⅠ	2春	1	○	▲	本授業の履修前に、「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱ」を履修しておくことが望ましい
		韓国語コミュニケーションⅡ	2秋	1	○	▲	本授業の履修前に、「韓国語コミュニケーションⅠ」を履修しておくことが望ましい
		韓国語読解Ⅰ	2春	2	▲	▲	本授業の履修前に、「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱ」を履修しておくことが望ましい
		韓国語読解Ⅱ	2秋	2	▲	▲	本授業の履修前に、「韓国語読解Ⅰ」を履修しておくことが望ましい
		ロシア語コミュニケーションⅠ	2春	1	○	▲	本授業の履修前に、「ロシア語Ⅰ」「ロシア語Ⅱ」を履修しておくことが望ましい
		ロシア語コミュニケーションⅡ	2秋	1	○	▲	本授業の履修前に、「ロシア語コミュニケーションⅠ」を履修しておくことが望ましい
		ロシア語読解Ⅰ	2春	2	▲	▲	本授業の履修前に、「ロシア語Ⅰ」「ロシア語Ⅱ」を履修しておくことが望ましい
		ロシア語読解Ⅱ	2秋	2	▲	▲	本授業の履修前に、「ロシア語読解Ⅰ」を履修しておくことが望ましい
	小計(12科目)	—	18			—	
	演習科目	アカデミック・ライティング	1春	2	●		
		スタディスキルⅠ	1春	2		●	
		スタディスキルⅡ	1秋	2		●	
		小計(3科目)	—	6			—
専門科目群	国際関係コース科目	モンゴル文化社会論	2・3春	2	○	○	
		日中交流史	2・3・4秋	2	○	○	
		朝鮮半島社会論	2・3秋	2	○	○	本授業の履修前に、「朝鮮半島政治論」を履修しておくこと
		ロシア社会論	2・3春	2	○	○	本授業の履修前に、「歴史学概論」を履修しておくことが望ましい
		ロシア文化論	2・3秋	2	○	○	本授業の履修前に、「ロシア社会論」を履修しておくことが望ましい
		比較宗教学	2・3・4秋	2	○	○	本授業の履修前に、「比較文化論」を履修しておくことが望ましい
		社会宗教論	2・3秋	2	○	○	
		北東アジア民族関係論	2・3・4秋	2	○	○	
		グローバル市民社会論	2・3春	2	○	○	
		アジア環境論	2・3春	2	○	○	
		アジアのイスラーム世界	2・3春	2	○	○	
		南アジア研究	2・3春	2	○	○	
		環境経済学	3・4秋	2	○	○	本授業の履修前に、「ミクロ経済学」を履修しておくことが望ましい
		環境システム論	3・4秋	2	○	○	
		政策過程論	2・3春	2	○	○	
		NPO論	2・3秋	2	○	○	
		憲法Ⅱ	2・3春	2	○	○	本授業の履修前に、「憲法Ⅰ」を履修しておくことが望ましい
比較憲法	2・3秋	2	○	○	本授業の履修前に、「憲法Ⅰ」を履修しておくことが望ましい		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	履修区分		特記事項		
				国際関係コース	国際コミュニケーション			
国際関係コース科目	文化社会学	2・3秋	2	○	○	本授業の履修前に、「アメリカ政治外交論」「朝鮮半島外交論」を履修しておくことが望ましい  本授業の履修前に、「歴史学概論」を履修しておくことが望ましい 本授業の履修前に、「ロシア社会学」と同程度の内容が身につけていること 本授業の履修前に、「ロシア社会学」と同程度の内容が身につけていること 本授業の履修前に、「北東アジア国際関係史」を履修しておくことが望ましい 本授業の履修前に、「国際法」「国際機構論」と同程度の内容が身につけていること  本授業の履修前に、「ミクロ経済学」を履修しておくことが望ましい		
	福祉社会学	2・3秋	2	○	○			
	中国政治社会学	2・3春	2	○	○			
	中国外交論	2・3秋	2	○	○			
	朝鮮半島政治論	2・3春	2	○	○			
	朝鮮半島外交論	2・3春	2	○	○			
	日朝関係史	2・3・4秋	2	○	○			
	ロシア政治経済論	2・3・4秋	2	○	○			
	日露関係論	2・3秋	2	○	○			
	アジア比較政治	2・3・4春	2	○	○			
	グローバル・ガバナンス論	2・3秋	2	○	○			
	国際法	2・3春	2	○	○			
	国際機構論	2・3春	2	○	○			
	ヨーロッパ統合論	2・3春	2	○	○			
国際開発論	3・4春	2	○	○				
政治哲学	2・3秋	2	○	○				
小計(34科目)	—	66			—			
専門科目群	国際コミュニケーション学	日本語教育概論	2春	2	○	○	—	
		コーパス言語学	3・4春	2	○	○		
		対照言語学	3・4春	2	○	○		
		英語学特別演習	3秋	2	○	○		
		中国言語文化研究	3秋	2	○	○		
		韓国語学概論	3春	2	○	○		
		言語文化研究(ロシア語)	3秋	2	○	○		
		デジタルコミュニケーション論	2秋	2	○	○		
		映像コミュニケーション論	2・3春	2	○	○		
		映像表現論	2・3秋	2	○	○		
		ローカル・ジャーナリズム論	2・3・4春	2	○	○		
		英米文学リーディング	3・4春	2	○	○		
		コミュニケーション研究法	3秋	2	○	○		
		対人コミュニケーション論	3春	2	○	○		
	グローバルディスカッションⅠ	3春	2	○	○			
	グローバルディスカッションⅡ	3秋	2	○	○			
	小計(14科目)	—	32			—		
	英語	ビジネス英語Ⅰ	2春	2	○	○		本授業の履修前に、「ビジネス英語入門Ⅱ」を履修しておくことが望ましい
		ビジネス英語Ⅱ	2秋	2	○	○		本授業の履修前に、「ビジネス英語Ⅰ」を履修しておくことが望ましい
プレゼンテーション		2春	2	○	○			
ディベート		2秋	2	○	○			
リサーチペーパー・ライティング		3秋	2	○	○	本授業の履修前に、「エッセイライティングⅡ」を履修しておくことが望ましい		
小計(5科目)	—	10			—			
北東アジア言語	中国語音韻論	2秋	2	○	○	本授業の履修前に、「中国語読解Ⅰ」「中国語読解Ⅱ」を履修しておくことが望ましい 本授業の履修前に、「実践中国語Ⅰ」を履修しておくことが望ましい  本授業の履修前に、「韓国語読解Ⅰ」「韓国語読解Ⅱ」を履修しておくことが望ましい 本授業の履修前に、「実践韓国語Ⅰ」を履修しておくことが望ましい 本授業の履修前に、「ロシア語読解Ⅰ」「ロシア語読解Ⅱ」を履修しておくことが望ましい 本授業の履修前に、「実践ロシア語Ⅰ」を履修しておくことが望ましい		
	実践中国語Ⅰ	3春	2	○	○			
	実践中国語Ⅱ	3秋	2	○	○			
	韓国語音声学	2春	2	○	○			
	韓国のことばと社会	2秋	2	○	○			
	実践韓国語Ⅰ	3春	2	○	○			
	実践韓国語Ⅱ	3秋	2	○	○			
	実践ロシア語Ⅰ	3春	2	○	○			
実践ロシア語Ⅱ	3秋	2	○	○				
小計(9科目)	—	18			—			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単 位 数	履修区分		特記事項	
				国際 関係 コース	国際 コミュニ ケーション コース		
専門 科目群	演習 科目	基礎演習Ⅰ	1秋	2	●		
		国際コミュニケーション演習Ⅰ	2春	2		●	
		基礎演習Ⅱ	2春	2	●		
		国際コミュニケーション演習Ⅱ	2秋	2		●	
		国際関係専門演習Ⅰ	2秋	2	●		
		国際関係専門演習Ⅱ	3春	2	●		
		国際コミュニケーション専門演習Ⅰ	3春	2		●	
		国際関係専門演習Ⅲ	3秋	2	●		
		国際コミュニケーション専門演習Ⅱ	3秋	2		●	
		国際関係専門演習Ⅳ	4春	2	●		
		国際コミュニケーション専門演習Ⅲ	4春	2		●	
		国際関係専門演習Ⅴ	4秋	2	●		
		国際コミュニケーション専門演習Ⅳ	4秋	2		●	
		卒業研究	4秋	4	●	●	
小計(14科目)		—	30			—	

別表2 (第4条関係)

## 1 国際関係コース 卒業要件単位数

科目群	必修科目	選択必修科目	選択科目	区分計
一般教養科目			20	/
語学・多文化理解科目	4	4		
キャリア科目	2			
基礎教養科目群	6	4	20	30
国際関係学科共通科目	6		14	/
国際関係コース科目	10			
国際コミュニケーションコース科目	2	4		
演習科目	2			
専門基礎科目群	20	4	14	38
国際関係コース科目			28	/
国際コミュニケーションコース科目				
演習科目	14			
卒業研究	4			
専門科目群	18	0	28	46
自由選択科目			10	10
合計	44	8	72	124

## 2 国際コミュニケーションコース 卒業要件単位数

科目群	必修科目	選択必修科目	選択科目	区分計
一般教養科目			16	/
語学・多文化理解科目	8	4		
キャリア科目	2			
基礎教養科目群	10	4	16	30
国際関係学科共通科目	2		8	/
国際関係コース科目				
国際コミュニケーションコース科目	10	6		
演習科目	4			
専門基礎科目群	16	6	18	40
国際関係コース科目			20	/
国際コミュニケーションコース科目				
演習科目	12		8	
卒業研究	4			
専門科目群	16	0	28	44
自由選択科目			10	10
合計	42	10	72	124

## 島根県立大学地域政策学部履修細則

令和3年4月1日  
島根県立大学規程第209号

(目的)

**第1条** この規程は、島根県立大学国際関係学部・地域政策学部履修規程第12条の規定に基づき、島根県立大学学則（以下「学則」という。）に定めるもののほか地域政策学部における授業科目の履修方法等に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(人材育成に関する目的)

**第2条** 地域政策学部地域政策学科の各コースにおける人材育成の目的は次のとおりとする。

(1) 経済経営・デジタルマネジメントコース

経済学や経営学に関する知識や考え方にもとづき、行政や企業と連携する地域活動を行い、デジタル技術やデータ分析、プロジェクト管理手法などを用いて、地域経済や企業の発展に貢献できる人材を育成する

(2) 地域公共コース

生活圏である地域の持続と発展、そして人々の共生のために、多様性を尊重しつつ、公共的見地から多様な知識を融合させて、協働と自律の理念のもとに、課題の解決策を立案できる人材を育成する

(3) 地域づくりコース

地域の人々と緊密なコミュニケーションをとりながら、地域の見落とされている価値を見出し、地域の価値を生かした事業を粘り強く継続し、長期的に地域が直面する課題に自分独自の解答を見出すことができる「地域で生きる自立型人材」を育成する  
(授業科目)

**第3条** 学長は、前条に定める人材育成の目的を達成するために、必要な教育課程を編成するものとする。

2 地域政策学部地域政策学科の教育課程のうち、授業科目の名称、配当年次、単位数及び履修区分は、別表1のとおりとする。

3 別表1の「履修区分欄」に定める科目の定義は次のとおりとする。

(1) 必修科目 必ず単位を修得しなければならない科目

(2) 選択科目 自由に選択し、履修することのできる科目

(3) コア領域科目 選択科目の内、コースの学びの中核となる科目

(4) 関連領域科目 選択科目の内、各コースの学びを拡充する科目

(卒業要件)

**第4条** 地域政策学部地域政策学科の各コースを卒業するためには、学則第37条に定めるもののほか、別表2に掲げる科目群及び履修区分ごとの所定の単位数を修得しなければならない。

2 別表2の「科目群」の欄に定める自由選択科目とは、以下に掲げるものをいう。

ア 各科目群の卒業要件単位数を超えて履修する科目

- イ 授業科目表において「自由選択科目として履修可能」と記載されている科目
- ウ 他の大学等で開設する授業科目のうち地域政策学部が単位互換科目と認めた科目
- エ 国際関係学部科目のうち地域政策学部生が履修可能な科目

#### 附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

#### 附 則

この規程は、令和7年4月1日から施行する。ただし、令和6年4月1日以前に入学した者に係る授業科目及び卒業要件については、第3条及び第4条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

#### 附 則

この規程は、令和8年4月1日から施行する。ただし、令和7年4月1日以前に入学した者に係る授業科目及び卒業要件については、第3条及び第4条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表1 (第3条関係)

(凡例: ●必修科目 ○選択科目 (◎)コア領域科目 聞: 関連領域科目)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	履修区分			特記事項
				経済経営・デジタルマネジメントコース	地域公共コース	地域づくり	
社会科学	しほね地域共生学入門	1春	2	○	○	○	
	日本の政治	1春	2	○	○	○	【地域公共コース】履修を推奨する
	国際社会と政治	1春	2	○	○	○	
	グローバル時代の平和と安全	1秋	2	○	○	○	
	グローバリゼーション論	1春	2	○	○	○	
	経済学入門	1春	2	●	○	○	
	現代企業論	1秋	2	○	○	○	【経済経営・デジタルマネジメントコース】履修を推奨する
	法学入門	1春	2	○	○	○	【地域公共コース】履修を推奨する
	社会学入門	1春	2	○	○	○	【地域公共コース】履修を推奨する
	ジェンダー論	1・2秋	2	○	○	○	
小計(10科目)	—	20				—	
人文科学	哲学	1・2春	2	○	○	○	
	日本思想史入門	1・2春	2	○	○	○	
	日本文化論	1・2秋	2	○	○	○	
	人文地理学	1・2秋	2	○	○	○	
	歴史学概論	1春	2	○	○	○	
	西洋近代史	2春	2	○	○	○	
	文学	1・2春	2	○	○	○	
	心理学概論	1・2春	2	○	○	○	
	地域文化入門	1秋	2	○	○	○	
小計(9科目)	—	18				—	
自然科学	経済数学の基礎	1春	2	○	○	○	
	自然地理学	1・2秋	2	○	○	○	
	環境科学	1・2秋	2	○	○	○	
	島根県の水産業	1・2秋	2	○	○	○	
小計(4科目)	—	8				—	
情報・統計	コンピュータ・リテラシー	1春	2	○	○	○	
	情報リテラシー	1春	2	○	○	○	
	統計学Ⅰ	1秋	2	○	○	○	
	統計学Ⅱ	2春	2	○	○	○	
小計(4科目)	—	8				—	
連携	教養ラボⅠ	2通	4	○	○	○	
	教養ラボⅡ	3通	4	○	○	○	
	小計(2科目)	—	8				—
英語	英語Ⅰ	1春	2	●	●	●	
	英語Ⅱ	1秋	2	●	●	●	
	ビジネス英語入門Ⅰ	1春	2	○	○	○	本授業の履修前に、「ビジネス英語入門Ⅰ」を履修しておくことが望ましい
	ビジネス英語入門Ⅱ	1秋	2	○	○	○	本授業の履修前に、「英語Ⅰ」を履修しておくことが望ましい
	海外英語研修	1秋	2	○	○	○	
小計(5科目)	—	10				—	
語学・多文化理解科目	中国語Ⅰ	1春	2	○	○	○	本授業の履修前に、「中国語Ⅰ」を履修しておくことが望ましい
	中国語Ⅱ	1秋	2	○	○	○	本授業の履修前に、「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」を履修しておくことが望ましい
	海外中国語研修	2春	2	○	○	○	
	韓国語Ⅰ	1春	2	○	○	○	本授業の履修前に、「韓国語Ⅰ」を履修しておくことが望ましい
	韓国語Ⅱ	1秋	2	○	○	○	本授業の履修前に、「韓国語Ⅰ」、「韓国語Ⅱ」を履修しておくことが望ましい
	海外韓国語研修	2春	2	○	○	○	
	ロシア語Ⅰ	1春	2	○	○	○	本授業の履修前に、「ロシア語Ⅰ」を履修しておくことが望ましい
	ロシア語Ⅱ	1秋	2	○	○	○	本授業の履修前に、「ロシア語Ⅰ」、「ロシア語Ⅱ」を履修しておくことが望ましい
	海外ロシア語研修	2春	2	○	○	○	
小計(9科目)	—	18				—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	履修区分			特記事項
				英語・経済・マネジメント・デジタルコース	地域公共	地域づくりコース	
基礎教養科目群	日本語Ⅰ	1春	2	○	○	○	外国人留学生のみ履修を認める ※履修を推奨する
	日本語Ⅱ	1春	2	○	○	○	外国人留学生のみ履修を認める ※履修を推奨する
	日本語Ⅲ	1秋	2	○	○	○	外国人留学生のみ履修を認める ※履修を推奨する
	日本語Ⅳ	1秋	2	○	○	○	外国人留学生のみ履修を認める ※履修を推奨する
	小計(4科目)	—	8				—
	異文化理解 (アメリカ)	1秋	2	○	○	○	本授業の履修前に、「北東アジア言語」「多文化共生論入門」及び「異文化理解」を履修しておくことが望ましい。
	異文化理解 (カナダ)	1春	2	○	○	○	
	異文化理解 (中国)	1春	2	○	○	○	
	異文化理解 (韓国)	1春	2	○	○	○	
	異文化理解 (ロシア圏)	1春	2	○	○	○	
	多文化交流	1秋	2	○	○	○	
	中国文化入門	1春	2	○	○	○	
	小計(7科目)	—	14				—
	キャリア	キャリアプランニング	2秋	2	●	●	●
キャリアプラクティス		1秋	1	○	○	○	
小計(2科目)	—	3				—	
学科コア	地域政策概論	1春	2	●	●	●	
	地域社会論	1秋	2	●	●	●	
小計(2科目)	—	4				—	
リサーチ	社会調査法	1秋	2	○	○	○	
	質的調査法	2春	2	○	○	○	
	アカデミックライティング	1春	2			●	
	数的処理の基礎	1・2秋	2	○	○	○	
小計(4科目)	—	8				—	
国際理解科目	国際政治学	2秋	2	○	○	○	本授業の履修前に、「歴史学概論」と同程度の内容が身についていること。
	国際関係概論	1秋	2	○	○	○	
	平和学	2・3秋	2	○	○	○	
	多文化共生論入門	1春	2	○	○	○	
	北東アジア国際関係史	2春	2	○	○	○	
	文化人類学	1・2春	2	○	○	○	
小計(6科目)	—	12				—	
実習科目	フィールド基礎実習A	1・2春	2	○	○	○	
	フィールド基礎実習B	1・2春	2	○	○	○	
	地域理解 (国内研修)	2・3春	2	○	○	○	
	小計(3科目)	—	6				—
選修科目	マクロ経済学	1秋	2	●	◎	開	
	ミクロ経済学	1秋	2	●	◎	開	
	アジア経済論	2秋	2	◎	開	○	
	経営学総論	1春	2	●	開	開	
	会計学	2春	2	◎	○	開	
	中小企業論	2春	2	◎	開	◎	
	経営組織論	2秋	2	◎	開	◎	
	地域観光資源論	1秋	2	◎	開	◎	
	地域資源活用法	2秋	2	開	○	●	
	地域思想論	1秋	2	開	開	●	
	社会事業論	1秋	2	開	開	◎	
	憲法Ⅰ	1秋	2	開	◎	開	
	行政法Ⅰ	2春	2	○	◎	○	
	民法Ⅰ(総則)	1秋	2	開	◎	開	
民法と家族	1秋	2	○	◎	開		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	履修区分			特記事項
				経済経営・デジタルマネジメント・デジタルコース	地域公共コース	地域づくりコース	
専門基礎科目群	行政学	1秋	2	開	◎	開	
	政治学概論	1春	2	○	◎	○	
	政治学	2秋	2	○	◎	○	
	政治思想史	2春	2	○	◎	○	
	社会学	1秋	2	開	◎	◎	
	SDGs概論	1春	2	◎	開	●	
	自然保護思想	1春	2	○	開	◎	
	コミュニケーション学概論	1春	2	○	◎	開	
	コミュニティ政策論	2春	2	開	開	◎	
	グローバル市民社会論	2春	2	○	開	◎	
	歴史資料解説法	2春	2	○	○	◎	
	地域文化論	1秋	2	○	○	◎	
	小計(27科目)	—	54				—
	演習科目	経済経営・デジタルマネジメント基礎演習	1秋	2	●		
地域公共基礎演習		1秋	2		●		
地域づくり基礎演習		1秋	2			●	
小計(3科目)	—	6				—	
専門科目群	計量経済学	2・3春	2	◎	開	開	本授業の履修前に、「統計学Ⅰ」を履修しておくことが望ましい
	地域経済論	2・3秋	2	◎	○	開	
	交通・観光経済論	2・3秋	2	◎	◎	開	本授業の履修前に、「ミクロ経済学」を履修しておくことが望ましい
	農業経済政策論	3・4春	2	◎	開	開	
	地域産業政策論	3・4秋	2	◎	開	○	
	財政学	2・3春	2	◎	◎	開	
	経営管理論	2秋	2	◎	開	○	
	マーケティング論	2春	2	◎	開	◎	
	ベンチャービジネス論	2・3春	2	◎	○	開	
	企業会計	2秋	2	◎	○	○	本授業の履修前に、「会計学」を履修しておくことが望ましい
	地域金融論	2・3春	2	◎	○	開	
	経営戦略論	3・4春	2	◎	○	○	
	意思決定論	2・3・4春	2	◎	開	○	
	環境経済学	2・3・4秋	2	◎	○	◎	本授業の履修前に、「ミクロ経済学」を履修しておくことが望ましい
	公共経済論	2・3春	2	◎	◎	開	本授業の履修前に、「ミクロ経済学」を履修しておくことが望ましい
	地域経営論	2・3春	2	開	開	◎	
	ブランディング論	2・3秋	2	○	○	◎	本授業の履修前に、「マーケティング論」を履修しておくこと
	起業実践法	3・4春	2	開	○	◎	
	憲法Ⅱ	2・3春	2	開	◎	開	本授業の履修前に、「憲法Ⅰ」を履修しておくことが望ましい
	比較憲法	2・3秋	2	○	◎	○	本授業の履修前に、「憲法Ⅰ」を履修しておくことが望ましい
	刑法	1・2秋	2	○	◎	○	
	行政法Ⅱ	2・3秋	2	○	◎	○	本授業の履修前に、「行政法Ⅰ」を履修しておくことが望ましい
	環境法	2・3秋	2	○	◎	○	
労働法	2・3秋	2	開	◎	○		
民法Ⅱ(物権)	2・3春	2	開	◎	○	本授業の履修前に、「民法Ⅰ(総則)」を履修しておくことが望ましい	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	履修区分			特記事項	
				経営管理・プロジェクト・ニュース	地域公共 ニュース	地域づくり ニュース		
専門科目群 選択科目	民法Ⅲ(債権)	2・3春	2	開	◎	○	本授業の履修前に、「民法Ⅰ(総則)」を履修しておくことが望ましい。	
	商法	2・3春	2	開	◎	○		
	国際法	2・3春	2	○	◎	○		
	地方政治	2・3秋	2	○	◎	○		
	政治哲学	2・3秋	2	○	◎	○		
	政治過程論	2・3春	2	○	◎	開		
	現代政治分析	2・3・4秋	2	○	◎	開		
	地方自治論	2・3春	2	開	◎	開		
	政策過程論	2・3春	2	開	◎	○		
	地域交通政策論	2・3秋	2	開	◎	○		
	文化政策論	2・3秋	2	○	◎	◎		
	家族社会学	2・3春	2	○	◎	◎		
	文化社会学	2・3秋	2	○	◎	◎		
	福祉社会学	2・3秋	2	○	◎	◎		
	社会保障論	2・3春	2	開	◎	◎		
	関係人口論	2・3・4秋	2	開	◎	◎		
	NPO論	2・3秋	2	○	◎	◎		
	ボランティア論	2・3秋	2	○	開	◎		
	コミュニティデザイン論	2春	2	開	開	◎		
	ローカル・ジャーナリズム論	2・3・4春	2	○	○	◎		
	地域ネットワーク活用法	2・3春	2	○	○	◎		
	文化遺産活用法	2・3・4秋	2	○	○	◎		
	日本政治思想史(近世)	2・3秋	2	○	開	◎		隔年開講
	日本政治思想史(近代)	2・3秋	2	○	開	◎		隔年開講
	社会宗教論	2・3秋	2	○	○	◎		
	映像表現論	2・3秋	2	○	○	◎		
	地域総合計画論	2・3春	2	○	開	◎		
	国際開発論	2・3春	2	○	開	開		本授業の履修前に、「ミクロ経済学」を履修しておくことが望ましい。
	環境政策論	2・3・4春	2	○	開	◎		
	環境システム論	2・3・4秋	2	○	開	◎		
	環境保全論	2・3秋	2	○	○	◎		
	アジア環境論	2・3春	2	○	開	開		
	データ分析(基礎編)	2春	2	◎	開	開		
	データ分析(応用編)	2秋	2	◎	開	開		
	データ分析(活用編)	3春	2	◎	開	開		
	プロジェクトマネジメント1(基礎編)	2秋	2	◎	○	○		
	プロジェクトマネジメント2(応用編)	3春	2	◎	○	○		
	プロジェクトマネジメント3(活用編)	3秋	2	◎	○	○		
	コンピュータシステム1 (ハードウェアとソフトウェア)	2春	2	◎	○	○		
	コンピュータシステム2 (ネットワークとデータベース)	2秋	2	◎	○	○		
	システム開発技術	3春	2	◎	○	○		
行動経済学	2春	2	○	○	○			
行動科学	2秋	2	○	○	○			
イノベーション思考	3春	2	○	○	○			
生産管理論	2・3春	2	◎	○	○			
経営情報システム論	2・3春	2	◎	○	○			
小計(71科目)	-	142	-	-	-	-		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単 位 数	履修区分			特記事項
				マ ネ ジ メ ン ト コ ー ス	地 域 公 共 コ ー ス	地 域 づ く り コ ー ス	
専 門 科 目 群	地域マネジメント演習Ⅰ	2春	2	●			
	地域マネジメント演習Ⅱ	2秋	2	●			
	地域マネジメント演習Ⅲ	3春	2	●			
	地域マネジメント演習Ⅳ	3秋	2	●			
	地域マネジメント演習Ⅴ	4春	2	●			
	地域マネジメント演習Ⅵ	4秋	2	●			
	専門演習Ⅰ	2春	2		●		
	専門演習Ⅱ	2秋	2		●		
	専門演習Ⅲ	3春	2		●		
	専門演習Ⅳ	3秋	2		●		
	専門演習Ⅴ	4春	2		●		
	専門演習Ⅵ	4秋	2		●		
	地域プロジェクト研究ⅠA	2春	2			●	
	地域プロジェクト研究ⅠB	2秋	2			●	
	地域プロジェクト研究ⅡA	3春	2			●	
	地域プロジェクト研究ⅡB	3秋	2			●	
	卒論演習Ⅰ	4春	2			●	
	卒論演習Ⅱ	4秋	2			●	
	卒業研究	4秋	4	●	●	●	
小計(19科目)		—	40			—	

別表2 (第4条関係)

## 1 経済経営・デジタルマネジメントコース 卒業要件単位数

科目群	必修科目	選択科目	区分計	
一般教養科目	2		/	
語学・多文化理解科目	4	20		
キャリア科目	2			
基礎教養科目群	8	20	28	
学科コア科目	4		/	
リサーチ科目・国際理解科目		4		
実習科目		4		
経済経営・デジタルマネジメントコース コア領域科目	6	8		
経済経営・デジタルマネジメントコース 関連領域科目		4		
演習科目	2			
専門基礎科目群	12	16	4	32
経済経営・デジタルマネジメントコース コア領域科目		20	8	
経済経営・デジタルマネジメントコース 関連領域科目		10		
演習科目	12			
卒業研究	4			
専門科目群	16	30	8	54
自由選択科目			10	10
合計	36	46	42	124

## 2 地域公共コース 卒業要件単位数

科目群	必修科目	選択科目	区分計	
一般教養科目			/	
語学・多文化理解科目	4	22		
キャリア科目	2			
基礎教養科目群	6	22	28	
学科コア科目	4		/	
リサーチ科目・国際理解科目		4		
実習科目		4		
地域公共コース コア領域科目		14		
地域公共コース 関連領域科目		4		
演習科目	2			
専門基礎科目群	6	22	4	32
地域公共コース コア領域科目		20	8	
地域公共コース 関連領域科目		10		
演習科目	12			
卒業研究	4			
専門科目群	16	30	8	54
自由選択科目			10	10
合計	28	62	44	124

## 3 地域づくりコース 卒業要件単位数

科目群	必修科目	選択科目	区分計	
一般教養科目			/	
語学・多文化理解科目	4	22		
キャリア科目	2			
基礎教養科目群	6	22	28	
学科コア科目	4		/	
リサーチ科目・国際理解科目		4		
実習科目	2	4		
地域づくりコース コア領域科目	6	8		
地域づくりコース 関連領域科目		4		
演習科目	2			
専門基礎科目群	14	16	4	34
地域づくりコース コア領域科目		20	6	
地域づくりコース 関連領域科目		10		
演習科目	12			
卒業研究	4			
専門科目群	16	30	6	52
自由選択科目			10	10
合計	36	46	42	124

## 島根県立大学人間文化学部保育教育学科履修細則

平成 30 年 4 月 1 日  
島根県立大学規程第 156 号

(趣旨)

**第 1 条** この細則は、島根県立大学人間文化学部履修規程（以下「履修規程」という。）第 4 条に基づき、保育教育学科（以下「学科」という。）の学生の履修及び単位の認定に必要な事項を定める。

2 本細則に定めるもののほか、必要な事項については、人間文化学部教務委員会の議を経て、人間文化学部教授会においてこれを定める。

(単位算定基準)

**第 2 条** 各授業科目の単位算定基準は島根県立大学学則（以下「学則」という。）第 3 2 条に定める。

(科目区分、科目分類及び卒業所要単位数)

**第 3 条** 科目区分及び科目分類に応じた卒業に必要な修得単位数の詳細については、学則第 3 7 条に定める。

(授業科目の配当年次、履修方法、修得単位数の詳細等)

**第 4 条** 学則第 3 7 条第 1 項別表の授業科目のうち、学科の学生が履修できる授業科目の配当年次、履修方法、修得単位数の詳細は、島根県立大学人間文化学部履修規程の別表（以下、「履修規程別表」という。）に定める。

2 履修規程別表に定める授業科目のうち、各年度に開講する授業科目、当該授業科目担当教員名等は、その年度の始めに発表する。

(授業科目の履修登録)

**第 5 条** 履修登録できる授業科目については、前条第 2 項に定めるとおりとし、学生は、授業科目のうちから履修科目を選択し、指定の登録日に所定の履修手続きにより、履修科目を登録（以下「履修登録」という。）しなければならない。

2 前項の履修登録は、本細則に定めるもののほか、履修指導に従って、これを行わなければならない。ただし、教育上必要と認められる場合には、履修規程別表にかかわらず、学生の在籍する配当年次と異なる授業科目の履修登録を認めることがある。

3 第 1 項の履修登録において、同一授業科目及び既修得授業科目については、これを行うことができない。ただし、副題の異なる同科目については、別にこれを定める。

4 第 1 項の履修登録において、不合格とされた授業科目を再度履修する場合は、履修指導に従って、これを行わなければならない。

5 演習、実習又は卒業研究の授業科目を履修する場合は、担当教員の履修承認を受けて登録しなければならない。

(履修登録上の制限)

**第 6 条** 学生は、履修者制限を定める授業科目については、その制限に従い履修登録しなければならない。

(履修制限単位数)

**第 7 条** 履修規程第 3 条第 1 項のとおり、学生が 1 年間に履修登録できる単位数は、各年度にお

いて46単位を超えることができない。ただし、別に定める条件を満たす場合は、この限りではない。

2 編入学生及び学士入学についての履修制限単位数は、前項にかかわらず、単位換算決定後にこれを定める。

(履修モデル)

**第8条** 学科は、学生が履修規程第4条に示す免許状と資格の取得を円滑に達成するために、次の(1)～(3)に掲げる履修モデルを示すものとする。

(1) 幼・保モデル

幼稚園教諭一種免許状、保育士資格が取得可能

(2) 小・幼モデル

小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状が取得可能

(3) 小・特支モデル

小学校教諭一種免許状、特別支援学校教諭一種免許状が取得可能

2 前項の履修モデルは学科において別に定める。

3 学生は、1年秋学期までにいずれかの履修モデルを選択して4年間の履修計画を提出するものとする。

4 履修規程第4条に示す免許状と資格の追加履修は、1年次のGPAが2.5以上であった場合に、履修規程第3条第1項の単位制限の限りにおいて認める。履修計画は学期ごとの見直しを認めるものとする。

5 第1項の履修モデルで小学校教諭一種免許状又は特別支援学校教諭一種免許状の取得が可能なものを選択した場合は、履修規程第3条第1項の単位制限の限りにおいて、学則第41条の2に掲げる資格のうち、司書教諭資格取得を選択することができる。

(実習の履修承認)

**第9条** 前条の履修計画に関わらず、履修規程第4条に示す免許状と資格に係る実習の履修を登録した学生について、保育教育学科会議は、以下の要件を満たしている場合に履修を承認する。

(1) 保育教育学科が別に定める実習種別ごとの受講資格を満たしていること。なお、この受講資格は、学生が実習を行なううえで必要な科目等を定めることとし、保育教育学科会議での審議により決定する。

(2) 実習前の保育教育学科会議において実習生として認められること

2 実習が、傷病等の理由により配置された学期内に終了しなかった場合は、保育教育学科会議は、継続の可否を検討したうえで、別学期での追加履修を承認する。

(試験及び単位認定)

**第10条** 各授業科目の単位認定方法については、原則として履修規程7条の試験によって行う。

(成績評価)

**第11条** 成績評価は、学則第31条の定めに従い行う。

(事務担当)

**第12条** この細則に関する事務は、学務課が担当する。

(その他)

**第13条** この規程の施行に関し必要な事項は、教授会の議を経て学長が行う。

## 附 則

この細則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この細則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この細則は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この細則は、令和 4 年 10 月 1 日から施行し、令和 4 年 4 月 1 日より適用する。

**附 則**

この細則は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この細則は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。

# 島根県立大学人間文化学部保育教育学科履修細則運用のための実施要綱

令和3年4月1日  
人間文化学部保育教育学科

(趣旨)

第1条 本要綱は、島根県立大学人間文化学部履修規程第4条に基づき、保育教育学科の学生の履修及び単位の認定に必要な事項を定める細則を運用するにあたっての必要な事項について定めるものである。

(履修モデル)

第2条 細則第8条について、以下の内容を追加するものとする。

第1項の履修モデル及び第4項で追加された免許状と資格の教職課程履修登録の変更期間は、原則2年次修了時までとする。

(特別支援学校の教育実習)

第3条 特別支援学校の教育実習の対象学生は以下のとおりとする。

- (1) 一年修了時の総合 GPA が 3.0 以上である者
- (2) 特別支援学校教諭一種免許状を取得する意思がある者
- (3) (1) と (2) の条件で希望者が 25 名を上回った場合、選抜試験を実施し成績上位者から 25 名とする。

## 附 則

この実施要綱は、令和3年4月1日から施行する。

## 附 則

この実施要綱は、令和5年4月1日から施行する。

## 附 則

この実施要綱は、令和6年4月1日から施行する。